

==== 会員の広場 ====

## 井上栄一博士の御逝去を悼む

井上博士は、1993年3月3日田園調布の自宅で永い眠りにつかれた。享年76歳であった。気象学会の若い研究者の方はあまり御存知ないと思われるが、50歳以上の会員にとっては井上博士は研究発表会で鋭い質問をされ、返答に困らされたという印象が強いかもしれない。

柳田邦男氏の「零戦燃ゆ」のなかに、爆撃機B29の性能評価に井上栄一航技中尉があたったと記されている通り、井上博士は天下の秀才のあつまる東大航空学科を卒業後陸軍で戦時中を送られた。敗戦後、気象学とくに接地気層の乱流の研究に従事され、Kolmogorof や Obukhov の近代乱流理論に基づいて、拡散係数がスケールの4/3乗に比例して増加することや、Lagrangian 相関係数の形の予測などを次々と発表された。1951年には、東大航研の風洞プロペラを転用した農業用風洞のある農業技術研究所（現農業環境技術研究所）の室長に栄転され、耕地上の風の研究に、また農業気象研究の近代化に大きな業績をあげられた。

当時、研究環境は整備されず海外の研究情報は日比谷のアメリカ図書館でだけ入手可能であった。井上博士の談によると、大学ノートにうつしとった外国文献が40～50冊にのぼるとのことである。当時は年間10編以上の論文を気象集誌や応用力学に発表されており、真近でみる博士の研究への情熱と真理への精進には圧倒されるばかりであった。研究の成果は国の内外で広く認められ、1951年には合衆国の乱流研究会へ軍輸送隊の航空機で出席された。その報告は Batchelor の名著「均質乱流の理論、1953」に引用されている。

自らの研究活動と平行して、日本の乱流研究を活発にするために純粋気象から工学関係までの広い範囲の人々をあつめて「大気乱流研究会、RGAT」を定期的に開かれた。博士の豊かな学識とアイデア、そして人を差別しない人柄もあって多くの若い研究者があつまり、時のたつのを忘れて乱流の話に熱中した。この中から多くのすぐれた研究者が生まれ、それぞれの分野で活躍し、「風のシンポジウム」、「乱流シンポジウム」などが派生して現在にいたっている。このような研究活動によって1954年には第1回気象学会賞を小倉義光博士と同時に受けられ、1960年には穂波の研究で農業



DCVF レセプション (1992. Oct. 15) でテネシーワルツを披露される故井上博士

気象学会賞を受けられた。

穂波 (HONAMI) はもう一つの博士の造語「乱子、Turbulon」と並んで世界的に有名であるが、談によると世界に通用する津波 (TSUNAMI) に挑戦して作られたそうである。いま、GCMの精度向上のため大気-植生間での物理量の輸送・拡散過程の正確化が問題になっているが、井上博士は1950年代からこの研究の重要性を指摘され、世界にさきがけて空気力学的方法をCO<sub>2</sub>フラックスの測定に応用された。この研究は丁度始まっていたIBPの中で注目され、日本の農業気象研究を世界に知らしめるエポックとなった。

井上博士の教えを直接うけた研究者の多くも第一線を退いているが、博士がよく酒の席でいわれた「好きなもの 美人 新内 酒 煙草 乱子とともに 宇宙漫遊」のざれ歌を記して博士を偲ぶとともに、お別れを申し上げます。

(お茶の水女子大学 内嶋善兵衛)

### 略歴

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1917.1.1      | 新潟県に生まれる      |
| 1941.3        | 東京帝大工学部航空学科卒業 |
| 1941.4~1945.9 | 陸軍省航空本部航空技術大尉 |
| 1946.5~1951.5 | 東京大学理学部大学院    |

1947.2~1952.2	東京大学理工学研究所研究生	1966.6	国際生物学事業計画特別委員(日本学術会議)
1951.5	農業技術研究所気象科物理第二研究室長	1973.9	IUBS President of International Association for Aerobiology
1952.10	理学博士(東京大学)	1977.9	農業技術研究所退職
1965.9	第11回太平洋学術会議組織委員(日本学術会議)	1993.3	逝去
1966.4	農業技術研究所気象科長		

### 1993年度秋季大会の参加費払い込み通知票について

大会参加費・懇親会費の払い込み通知票は「天気」6月号の巻末に綴じ込んであります。ご利用下さい。

気象学会 事務局

通常払込料金  
加入者負担

**払込通知票**

日本番号	東京 3	1	万	千	百	十	元	金	額	送	千	百	十	円
5958														
日本気象学会														

通常払込料金  
加入者負担

**払込票**

日本番号	東京 3	1	万	千	百	十	元	金	額	送	千	百	十	円
5958														
日本気象学会														

お願い

1. 払込の際、郵便局で発行する受領証(この払込票の写し)を大会当日受付に提示していただきますので、大切に保存し、当日必ず持参してください。
2. 10月14日までに払込を終えてください。

1993年  
日本気象学会秋季大会事務局

**通信欄**

**申込書**

1993年日本気象学会  
秋季大会参加申込書

支部名 \_\_\_\_\_ 支部

所 属 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

**大会参加費**

会 員 ¥2,000円

学生会員 ¥1,000円

一 般 ¥2,500円

**懇親会費**

前 第 者 ¥5,000円

学 生 会 員 ¥4,000円

当日払い上記に ¥1,000円プラス

**合 計** ¥

(該当事項の金額を○で囲んでください)

この払込通知票は、機械で使用しますので、下部の欄を汚さないよう特に御注意ください。また、本票を折り曲げたりしないでください。(郵 政 省)